

山形県

山形市

NPO法人生涯スポーツ振興会(アプルス)

予算額

6,428,376 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	4	団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他	
	団体	1 団体	3 団体	団体	

トップアスリート総数	2	名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他	
		名	2 名	名	

アシスタントコーチ総数	2	名
-------------	---	---

指導種目

バレーボール、ゴルフ

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ トップアスリートについては事前に子供への接し方や救急法などの講習を行う。
- ・ 顧問の先生へ指導法などのサポート支援もできるような体制をとる。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ トップアスリートから直接指導を受けることによって、生徒の技術の向上が著しかった。
- ・ 部活動に活気が出てきた。
- ・ 競技力が向上した。

〔課題〕

- ・ 学校中心の支援になったが、他の団体との連携をし、もっと活動を広げていきたい。

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	被災者のための幼児体育ランド				
	趣旨・目的	山形に避難し、幼児を幼稚園に入園させず、お母さんがひとりでアパートで子育てをしている方が多い。そんな子どもたちに、のびのびと体を動かし遊べる場所を提供する。また、お母さんがリフレッシュできる時間を与え、育児の支援をする。				
	内容	体育活動を主とした保育をする。幼児期に必要な動きの習得を目指し、コーディネーション運動を取り入れた体育教室や積木や絵本の読み聞かせ、工作などの活動しながらの保育。				
	対象者	山形に避難している年少～年長の幼児	参加人数	延べ270名	実施回数	25回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 復興ボランティア支援センター山形に協力してもらい会報やメールで対象者へ広報テレビ局、新聞社へ連絡し、ニュースで取り上げてもらった。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達はコーディネーション運動でのびのびと運動し、元気に過ごせた。 お母さんたちにゆとりの時間ができた。 同じ立場のお母さんたちが集まり、コミュニケーションの場になった。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 次年度からは、対象の幼児が少なくなるため、保育園などを対象とした支援活動に切り替えていく。 幼児期に伸びる動作の習得ができるよう、たくさんの子どもたちを支援していく。 				

2	取組の名称	多様な動きをつくるコーディネーションを「学校体育」で活用しよう				
	趣旨・目的	運動遊びから競技スポーツまで基本となる動きをつくるコーディネーショントレーニングについて、第一人者の講師を招き、講習会を開催し、教員、スポーツ指導者の知識を高め、子どものスポーツ指導に役立ててもらおう。				
	内容	<p><講習会></p> <ol style="list-style-type: none"> 講義: コーディネーショントレーニングについて 講義、実技: 「小学校体育(体力づくり運動)」において使えるコーディネーショントレーニング 講義: 発育発達学からとらえた子どもの体力づくり(動きづくり) 				
	対象者	教員・スポーツ指導者など	参加人数	42名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会や広域スポーツセンターに広報の協力してもらう。 トレーナー協会などの指導者の団体へも周知活動を行う。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーショントレーニングの第一人者からの指導を受け、必要性から指導の仕方まで学ぶことができた。 学校体育にコーディネーショントレーニングを広めることができた。 全県からの参加者がいて地域スポーツに貢献できた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 周知活動の方法が不十分だったので、予定より参加者が少なかった。 					

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	8 校
---------	-----

コーディネーター総数	4 名
------------	-----

◆効果をもとめるための工夫や取組など

・ 山形教育委員会を通じて校長会と教頭会に出向き事業の説明をし支援体制を整えた。
・ 子どもたちの運動能力の向上の手助けになるようにコーディネーション運動を取り入れたサポートを行う。
・ 1ヶ月終了時にアンケートをとり事業についての効果や希望を調査した。
・ プロジェクトリーダーとコーディネーターで会議を開き成果や課題について話し合いの機会を数回もった。

◆成果と課題

〔成果〕

・ 各学校からのアンケートにより、授業の参考やヒントになった。よい見本をみせてもらった。子どもたちが積極的に楽しんでいる様子だった。子どもたちの動きがよくなった。
・ コーディネーション運動の普及に大きな成果を得られた。
・ 体育がとても楽しいということで、当会の体操教室に入会してくれた子どもがいた。
・ 小学校体育教師の講習会に講師としてコーディネーション運動の紹介をする機会をいただいた。
・ 学校と繋がりをもち連携を深めることができた。

〔課題〕

・ 各学校、各学年によってコーディネーターへ求めるものが違い、把握するのが大変。
・ コーディネーション運動については、事前に担任の先生ともっと打合せが必要。
・ 準備期間が短く、初めてのことであったので、支援体制をどう組み立てていけばよいのか把握できず、不安の中のスタートとなった。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

・ テレビのニュースや新聞で取りあげてもらい、当会の周知につながった。
・ 山形県教育庁、山形県教育委員会からも支援してもらい体制を整えることができた。
・ 職員が活躍する場ができ、やりがいのある事業を行うことができた。
・ 学校や教育委員会と連携を持つことで当会との繋がりを深めることができた。

〔課題〕

・ トップアスリートやコーディネーターの人材の確保。
・ スキルを上げるための研修会の開催。
・ 他団体との連携や支援体制を築く。
・ 行政との連携。